

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が続いているものの、持ち直しの動きがみられる」

項目	前回（3年10月判断）	今回（4年1月判断）	前回比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	新型コロナウイルス感染症の影響が続いているものの、持ち直しの動きがみられる	

（注）4年1月判断は、前回3年10月判断以降、4年1月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、感染症の影響がみられるなか、下げ止まっている。観光は、感染症の影響により厳しい状況にあるなか、一進一退の状況にある。

【各項目の判断】

項目	前回（3年10月判断）	今回（4年1月判断）	前回比較
----	-------------	------------	------

個人消費	感染症の影響により一部に弱さがみられるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	
生産活動	緩やかに持ち直しつつある	足踏みの状況にある	
雇用情勢	感染症の影響がみられるなか、下げ止まっている	感染症の影響がみられるなか、下げ止まっている	

設備投資	3年度は減少見込み	3年度は増加見込み	
観光	感染症の影響により厳しい状況にあるなか、下げ止まりの動きがみられる	感染症の影響により厳しい状況にあるなか、一進一退の状況にある	
企業収益	3年度は増益見込み	3年度は増益見込み	
企業の景況感	「上昇」超となっている	「上昇」超となっている	
住宅建設	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	
公共事業	前年を下回る	前年を下回る	

【先行き】

先行きについては、感染対策に万全を期し、経済社会活動を継続していく中で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、感染症による影響や供給面での制約、原材料価格の動向による下振れリスクに十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある」

スーパー販売は、総菜が堅調に推移しているほか、衣料品が動き始めており、緩やかに持ち直している。コンビニエンスストア販売は、感染症の影響がみられるものの、弁当や飲料水が回復傾向にあり、持ち直しつつある。乗用車販売は、納期の遅れが改善に向かいつつあり、持ち直しの兆しがみられる。ドラッグストア販売は、旅行用品などが堅調に推移しているものの、インバウンド消費剥落の長期化などにより、一進一退の状況にある。家電販売は、巣ごもり需要の一巡や一部商品が品薄になっていることもあり、持ち直しのテンポが緩やかになっている。ホームセンター販売は、DIY用品や園芸用品などが好調であることから、持ち直しつつある。百貨店販売は、来店客数の増加や冬物衣料の売上が好調であることから、緩やかに持ち直しつつある。

このように、個人消費は全体として、感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 飲食店に人が流れているものの、中食需要が一定程度あり、総菜が安定的に売れている。(スーパー)
- 住宅街の店舗は堅調に推移しているほか、繁華街やオフィス街にも人の動きが出てきており、弁当や飲料水の売上が少しずつ戻ってきている。(コンビニエンスストア)
- 11月以降は部品供給も概ね正常に戻り、受注数、来店客数ともに前年より増加したことから、回復の兆しが見えてきている。(乗用車販売店)
- 感染症対策でマスクをしていることから風邪をひきにくいほか、感染状況が落ち着いてからは病院の受診控えはみられないため、風邪薬の売れ行きが芳しくない。(ドラッグストア)
- 巣ごもり需要で伸長したパソコンなどの売上は落ち着いている一方、買い替え需要がみられる洗濯機や冷蔵庫は、部品供給の滞りにより、商品によっては品薄となっている。(家電量販店)
- 冬物衣料は、気温が下がっていることや、昨年の感染拡大で買い替えられなかった人の需要がみられ、大きく伸びている。(百貨店)
- 10月15日以降、飲食店の時短解除及びアルコール提供で徐々に回復してきている。12月には忘年会需要もあり、昨年と比較して売上が増加している。(不動産業)

■ 生産活動 「足踏みの状況にある」

生産活動は、「金属製品」などが増加しているものの、「鉄鋼業」や「輸送機械」などで減少しており、全体では足踏みの状況にある。

- 車両向けについては好調に推移してきたが、半導体不足等の影響から、需要が徐々に落ち着いてきている。(鉄鋼業)
- 半導体不足や東南アジアのサプライチェーン問題の影響で10月、11月と生産が落ち込んだ。足下では、その影響が緩和されつつあり、12月は計画通りに生産できたほか、1月も挽回生産を行う予定。(輸送機械)
- 再開発や物流施設等の大型工事がピークを迎えており、鉄骨の製造工場が高稼働の状況にある。(金属製品)

■ 雇用情勢 「感染症の影響がみられるなか、下げ止まっている」

有効求人倍率は横ばいで推移しており、雇用情勢は、感染症の影響がみられるなか、下げ止まっている。なお、完全失業率は前年を上回っている。

- 新規求人数は、感染症の落ち着きにより、若干先行き不透明感が解消されてきたためか、飲食、宿泊をはじめとする観光関連施設の営業再開等により増加しているものの、その水準はコロナ禍前を回復していないため、今後の動向に注視を要する。(公的機関)
- 月間有効求職者数は、コロナ禍前と比較すると高止まりしている。公的支援を受けた者による求職活動が長期化しているほか、感染症の落ち着きにより求職活動を開始する動きもみられる。(公的機関)
- コロナ禍が長期化する中で、一部従業員の退職が生じてしまった。観光支援事業の再開等により客室稼働率が上昇してきたものの、人手が足りないことから、やむなく宿泊サービスを一部縮小している。(宿泊業)

■ 設備投資 「3年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」3年10-12月期

- 製造業では、「輸送用機械器具」などが減少していることから、全体では減少見込みとなっている。
- 非製造業では、「娯楽業」などが増加していることから、全体では増加見込みとなっている。

- 2年度に工場の増設に伴う大規模設備投資を行った反動で、3年度の設備投資額は減少見込み。今後は、需要が旺盛な製品の増産のため、生産体制の強化を図る予定。(食料品)
- 新球場建設につき、今年度は完成へ向けて佳境を迎えており、多額の支出が見込まれている。(娯楽業)

■ 観光 「感染症の影響により厳しい状況にあるなか、一進一退の状況にある」

- 観光は、感染症の影響により厳しい状況にあるなか、来道客数は前年を上回っており、一進一退の状況にある。

- 早期割引の販売は好調で、12月と同様に高い水準が続くと思われるが、オミクロン株の動向には注視していく必要がある。(運輸業)
- 感染症が一旦は落ち着き、年明けも観光支援事業が延長されることもあり、良い材料が揃っている。今後は積極的にツアーを企画するほか、地元のお祭りが開催され、前年より規模が拡大される予定。流水観光と連携したツアーの募集も始まり、前年を上回る集客を見込んでいる。(宿泊業)
- 1月からの販売動向は、好調であった12月から大きな変化はない見通し。もっとも、オミクロン株の動向次第で全てキャンセルとなる可能性もあるため、引き続きその動向には注視していく必要がある。(旅行業)

■ 企業収益 「3年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」3年10-12月期

- 製造業では、「輸送用機械器具」などが増益となっていることから、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業では、「運輸業、郵便業」が赤字縮小となっていることなどから、全体では増益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「「上昇」超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」3年10-12月期

- 企業の景況感を当局の法人企業景気予測調査(3年10-12月期)で見ると、企業の景況判断BSIは、全産業では「上昇」超となっている。
なお、先行きは、4年1-3月期に「下降」超へ転じる見通しとなっている。

■ 住宅建設 「持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている」

- 住宅建設は、持家、貸家、分譲住宅いずれも前年を上回っているものの、全体では持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。

■ 公共事業 「前年を下回る」

- 公共事業を前払金保証請負金額で見ると、第3四半期は、独立行政法人等が前年を上回っているものの、国、北海道、市町村が前年を下回っており、全体では前年を下回っている。

■ 金融 「貸出金残高は前年を上回る」■ 企業倒産 「件数は前年を上回る」■ 消費者物価 「前年を上回る」